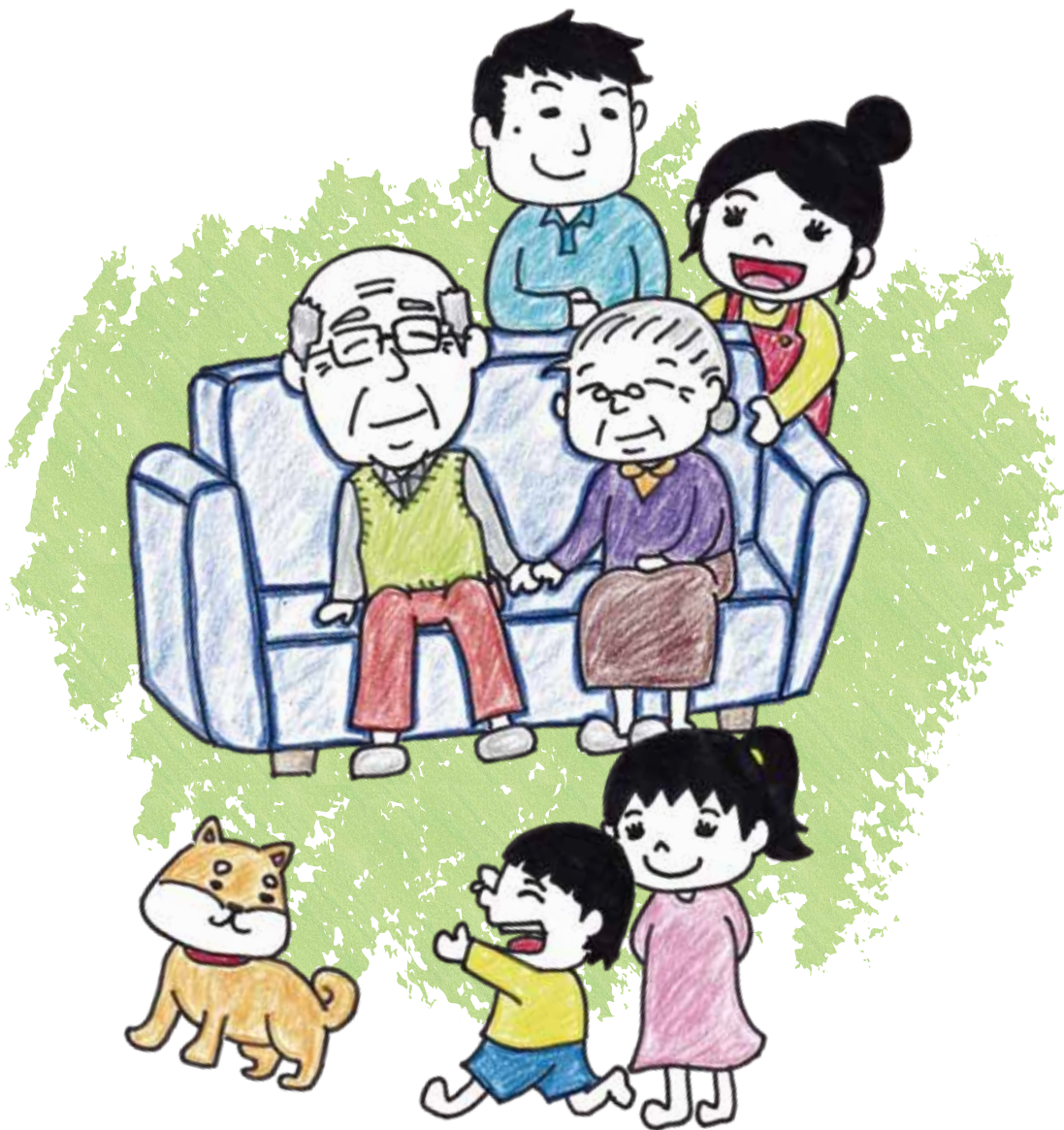


コロナに 負けない! みんなのねがい

2020年度
民推協
啓発資料



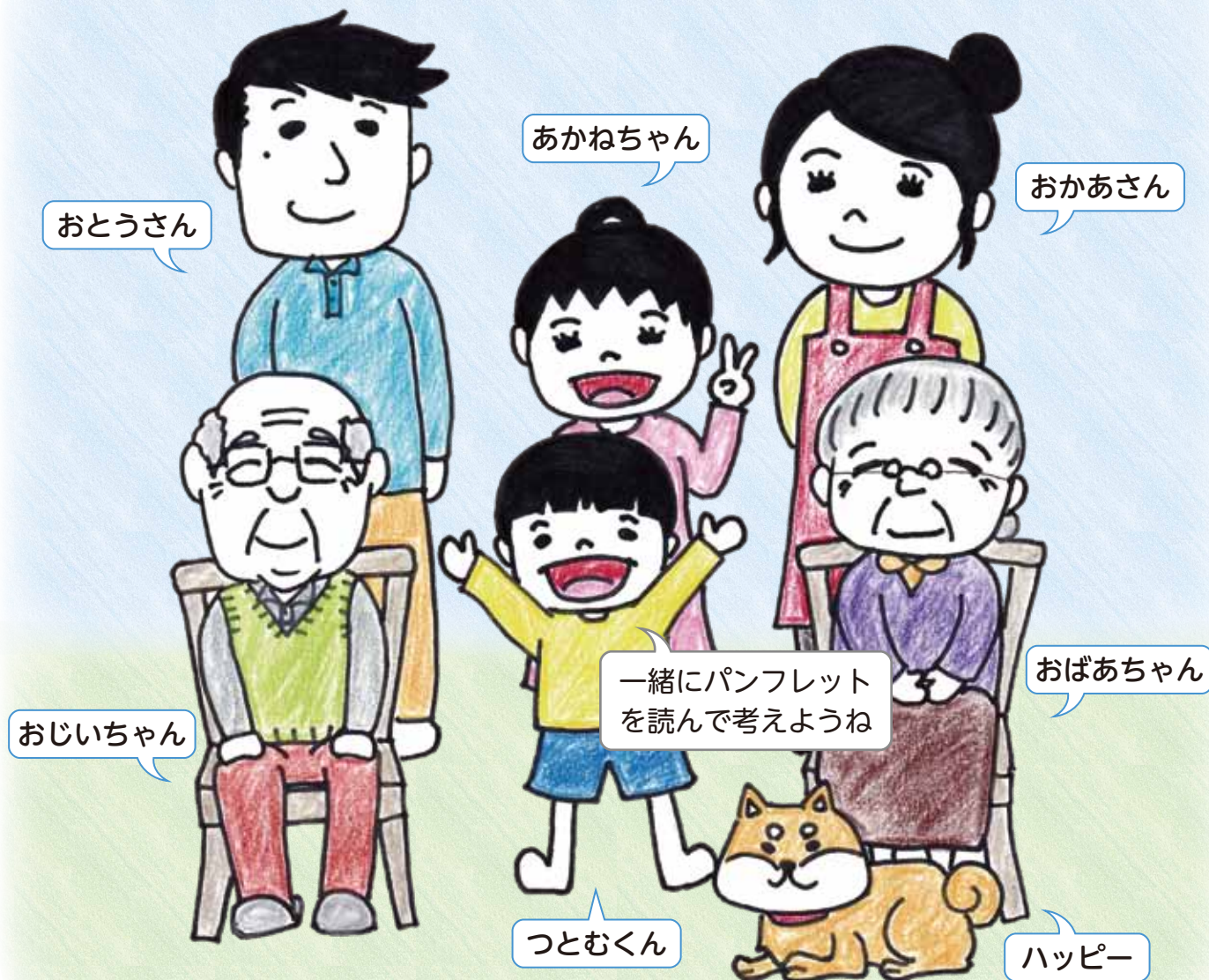
たつの市民民主化推進協議会
たつの市 たつの市教育委員会
たつの市議会 たつの市民病院

新型コロナウイルス感染症のことをみんなで考えてみよう

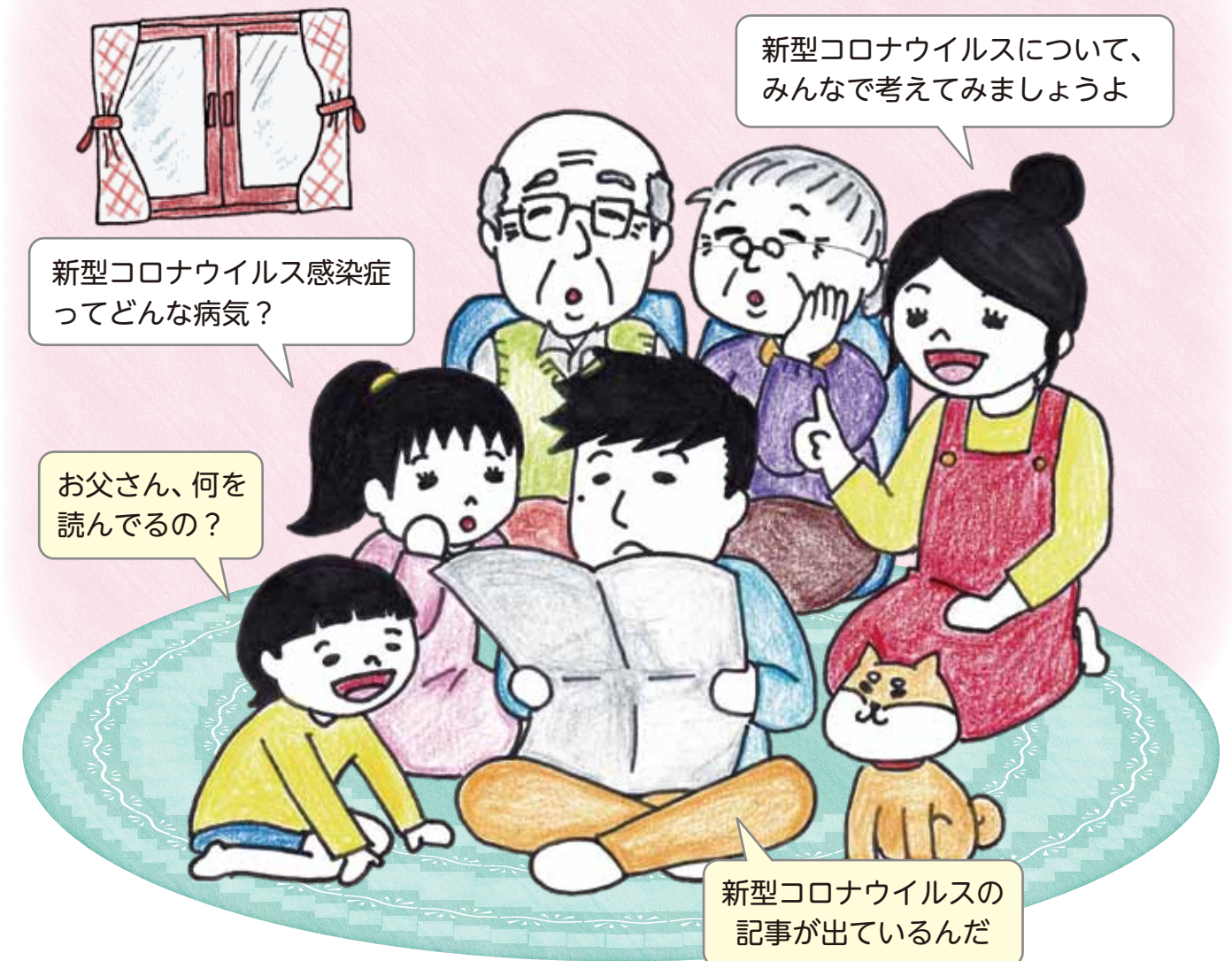
もくじ

- ・新型コロナウイルスに負けない私たちの役割 1P
- ・新型コロナウイルス感染症ってどんな病気なの? 2P
- ・感染者や家族・職場の人たちへの差別と偏見 4P
- ・新型コロナウイルスによる不安と恐怖 6P
- ・差別と偏見をなくすために大切なこと 8P
- ・同じあやまちをくりかえしてはいけない 9P

差別と偏見を語る しあわせ家族のご紹介



新型コロナウイルスに負けない私たちの役割

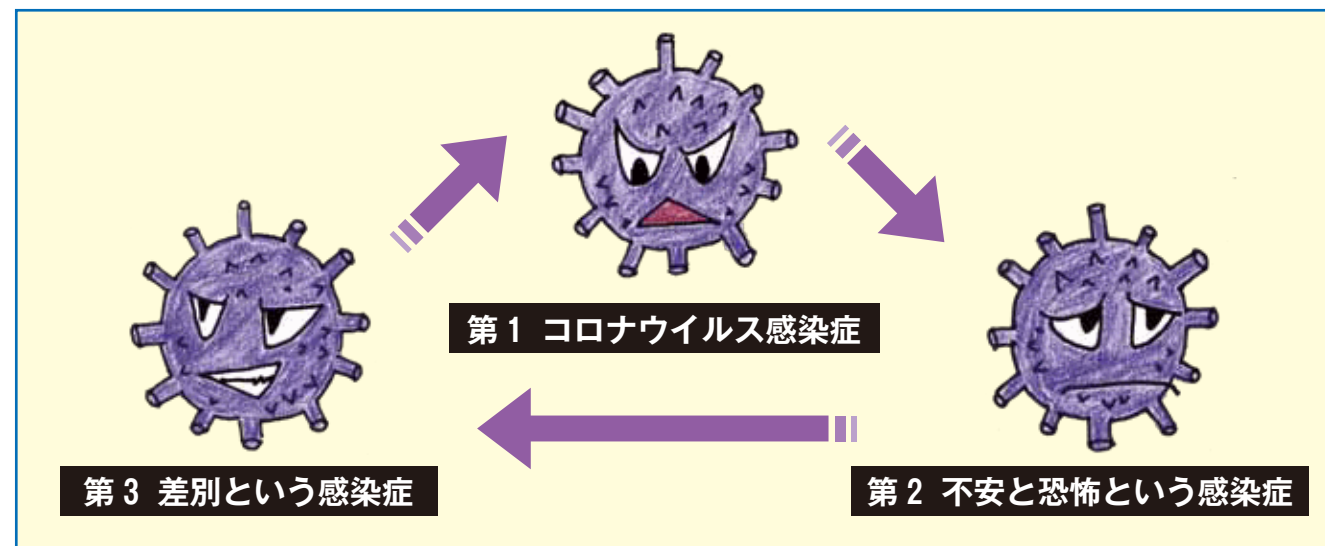


著作権の関係により、ここに掲載されている新聞記事や、それに関する内容の記載については、削除しております。

新型コロナウイルス感染症って どんな病気なの？



新型コロナウイルスには3つの感染症という顔があります。私たちは知らないうちに影響を受けています。みなさん、ご存知ですか？



新型コロナウイルスは

「嫌悪・偏見・差別」という心の感染症をまき散らしています。いわゆるハンセン病やHIV（エイズ）と同じように、感染者やその家族、職場の人たちが不当に扱われるということが、全国で起こっています。

そして、信頼関係や社会とのつながりが壊されています。

感染者や家族・職場の人たちへの差別と偏見

見えない敵（ウイルス）への不安



ウイルス感染を遠ざけたいという本能



医療従事者の子は登園しないほしい



不安が差別を生み出す



差別や偏見を恐れて、体調不良があっても受診をためらい、結果として病気（ウイルス）の拡散を招いてしまう



本当の敵はウイルスなのに、なぜ一生懸命やっているお医者さんや看護師さんなどの医療従事者をばい菌扱いするの？



間違った情報やウワサや想像から差別や偏見が生まれることもある。正しい知識を得ることが、大切だよ



医療従事者の子どもに「保育所に来るな。」とか、病院や医院が診察拒否したり、旅館にも泊まれなかったりしたそうだよ。医療従事者に対して、あまりにひどいよね



なぜ差別されるの？
そんなのいけないよ



「手洗い」
「マスク・咳エチケット」
「人混みを避ける」
これで防げるのにね



こんな差別があったの？

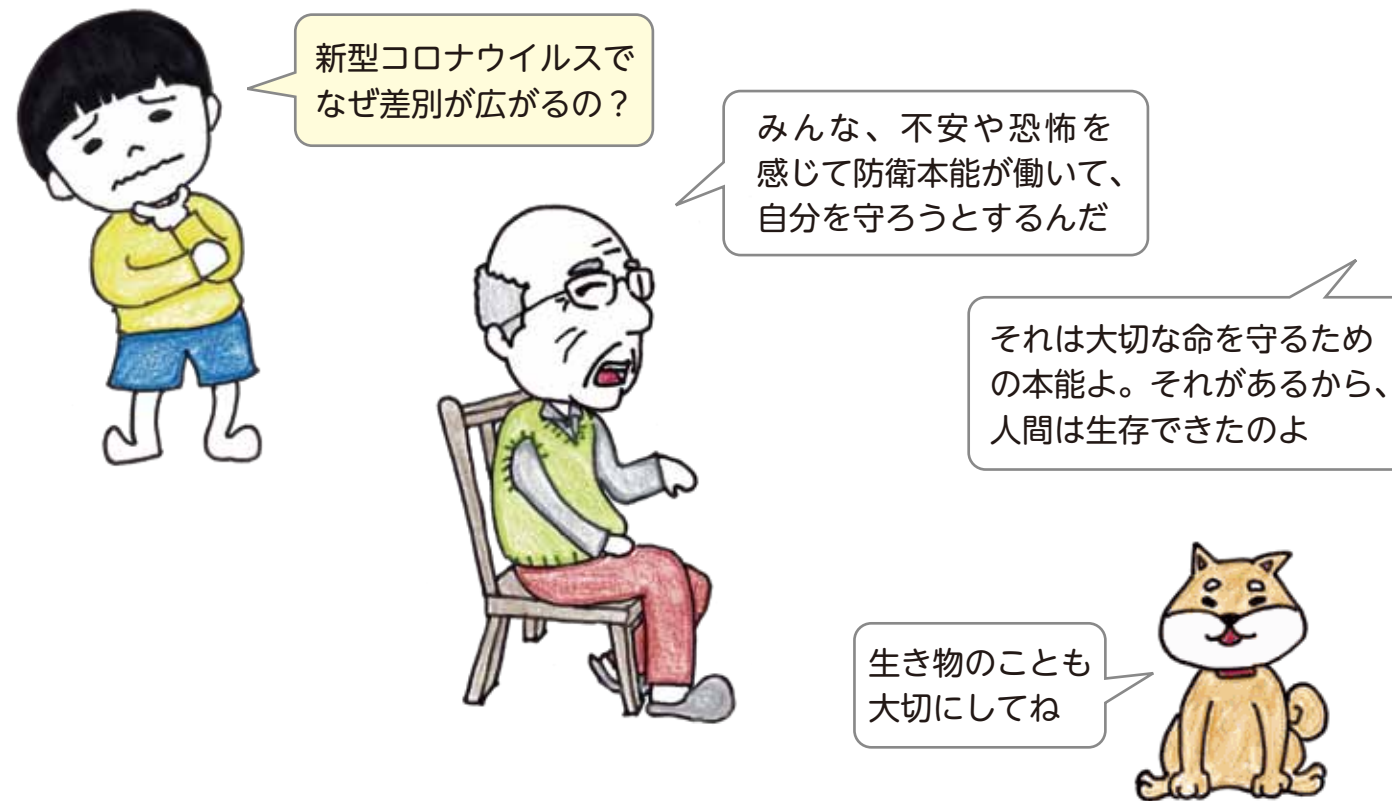
著作権の関係により、ここに掲載されている新聞記事については、削除しております。

★手洗いをしっかり
★マスクを着用
★3密（密閉、密集、密接）を避ける
★人混みを避ける

自分のためだけではなく、周りの人のためにもすることが大切です。この行動がお互いの人権尊重の基本です。

- 差別的な言動に同調しないようにしましょう
- 対立からは何も生まれません
- 人と人とのあたたかい関係が大切です

新型コロナウイルスによる不安と恐怖

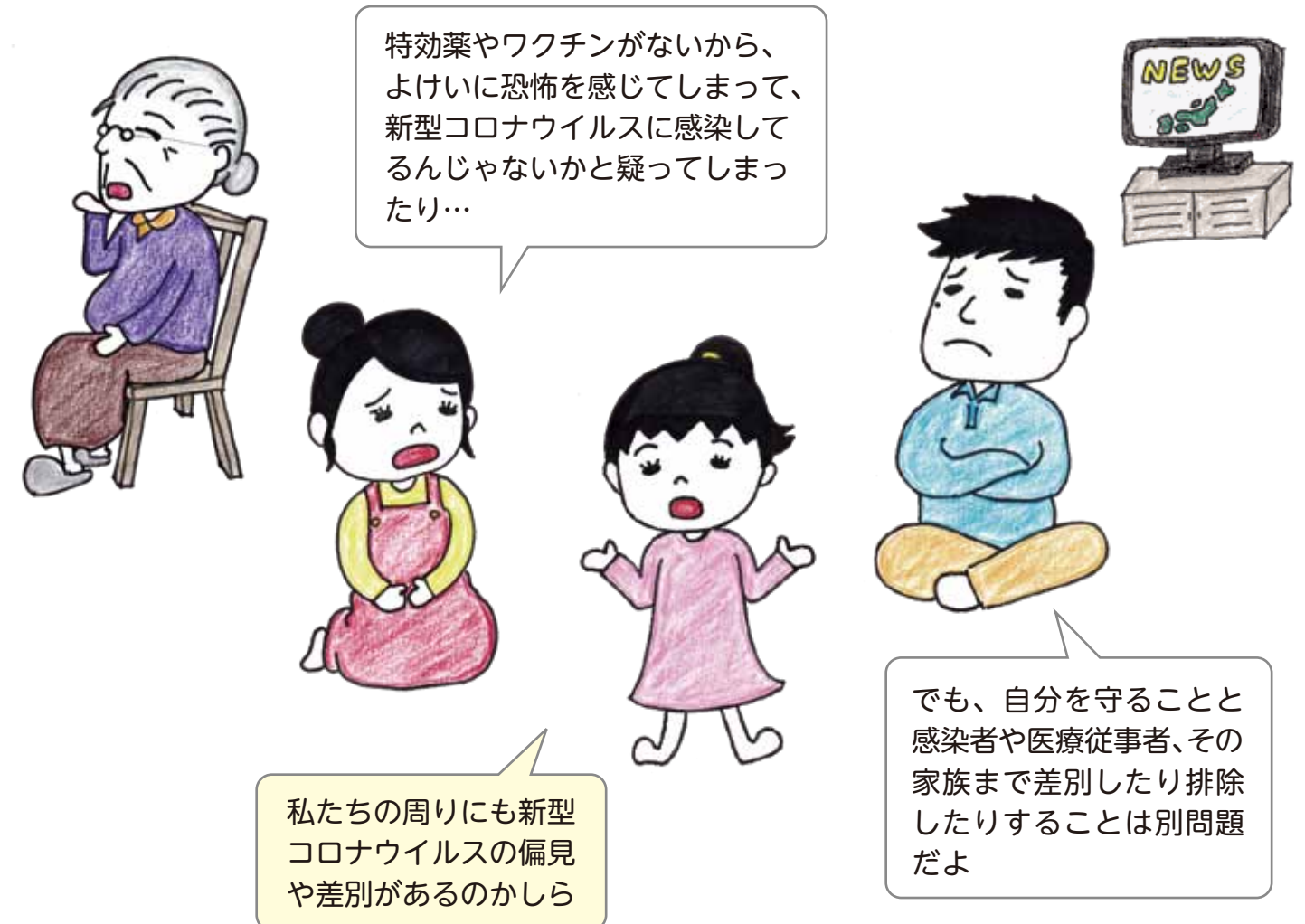


この緊急事態に頑張っている人たちに感謝と敬意を払いましょう

人々の「いのち」と「健康」を守るために働いている人たちは、新型コロナウイルスに感染している人ではないかとかその接触者ではないかと疑われ、除菌スプレーをかけられたり「ばい菌、あっちに行け」と言われたり、さまざまな差別を受けて、精神的苦痛や悲しい思いをしています。そういう差別的言動を行った人は、もはや心の感染症にかかっています。

みんな頑張っています！

- 医者、看護師などの医療従事者
- 感染者、自宅待機をしている人
- ごみ収集従事者、宅配従事者
- 高齢者
- 小さな子どものいる家族
- 日常生活をしながら社会を支えている人



さまざまな人権侵害が...

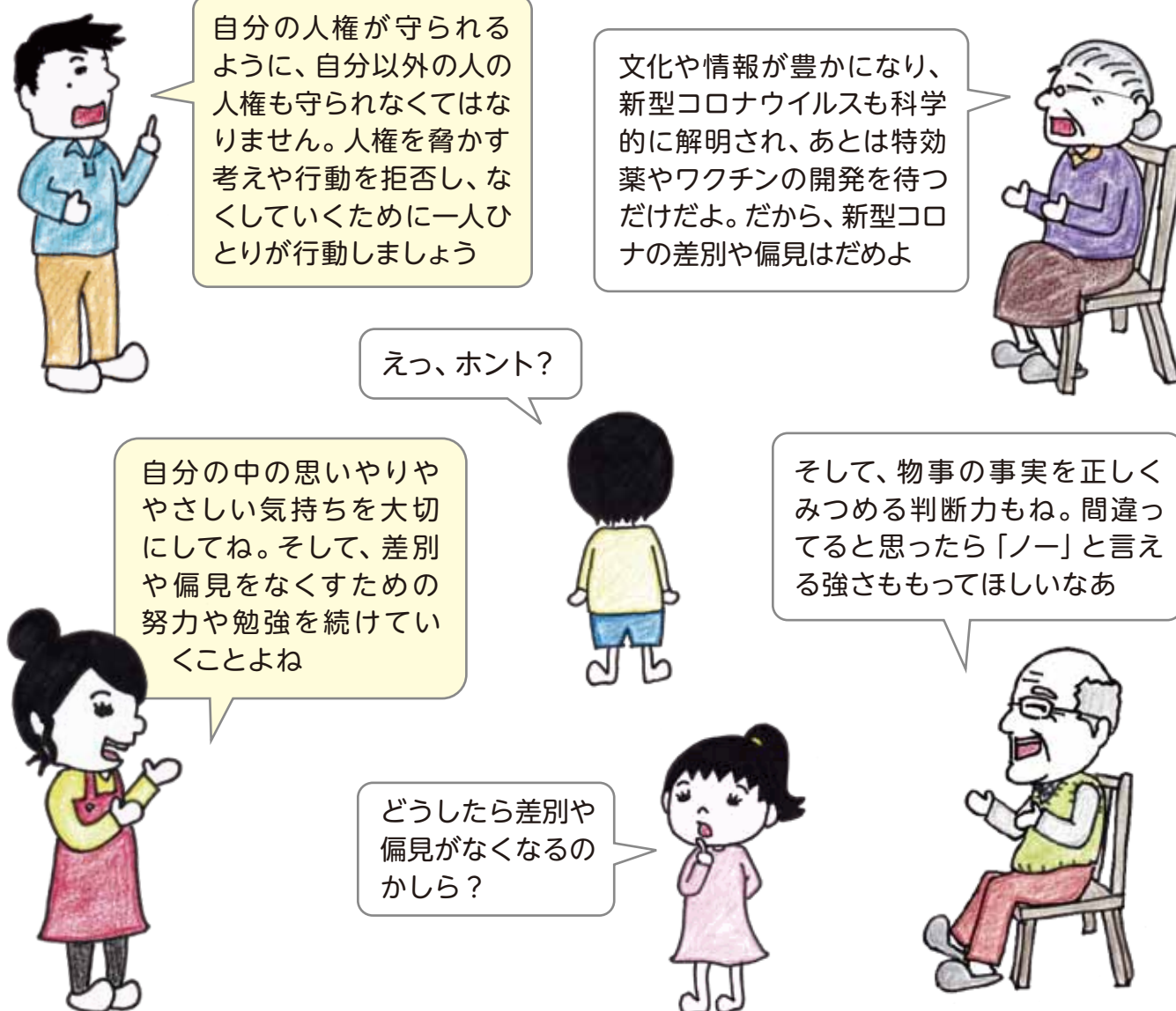
著作権の関係により、ここに掲載されている新聞記事については、削除しております。

新聞記事から

- 救急搬送たらい回し増加 7割はコロナ疑い
- 緊急事態宣言を受け、家庭内DV被害多発
- 患者、医療従事者とその家族が風評被害にさらされる
- 感染不安、差別浮き彫り

これらの記事以外にも多数あります

差別と偏見をなくすために大切なこと



たつの市内でも、新型コロナウイルスに関して差別的なことが発生しています。今まで人権のパンフレットなどの配布や市民研修を行うなど積極的に取組を重ねているにも関わらず、心ない言動や行動が後を絶ちません。

「私には関係ない」、「感染者の問題だ」と考えている人がいます。しかし連日、テレビや新聞で報道されている新型コロナウイルス関連に端を発した差別や偏見に、今一度私たちは「差別は犯罪である」という自覚を強くもつことが求められています。人と人とがつながり、信頼し合える地域づくりが、差別や偏見をなくすために大切です。

「信頼」…それは私たちみんなを幸せにしてくれるキーワードです。

同じあやまちをくりかえしてはいけない

新型コロナウイルスだけではなく、他の病気でも同じような過ちが繰り返されました。例えば、ハンセン病やHIVなどの感染者が、誤った認識や偏見などにより、施設や職場など様々なところで差別やプライバシーの侵害などを受けています。

これらの犠牲になった人々のことを忘れずに、これからどうしたらよいのかを考え続けることが、私たちに求められていることではないでしょうか。

ハンセン病

遺伝ではなく、非常に弱い感染症

ハンセン病は昔から「らい病」や「レブラ」と呼ばれ、世界中でたくさんの差別を受けてきた病気です。しかし、1873（明治6）年、ノルウェーの医師ハンセン氏によって原因となる菌が発見され、単なる非常に弱い感染症だとわかりました。それまで「遺伝病」というイメージが強かったのですが、治療薬が開発された1950年代以降、発病した人はほとんどなく完治しています。現在、日本では完全に治る病気です。しかし、誤った認識の払しょくが行われず、偏見や差別が根強く残りました。

2001年5月、ハンセン病訴訟で主張が認められ、国が責任を認めました。

HIV感染症

感染力が弱く、通常はうつりにくい

HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染している人をHIV感染者と称し、HIVに感染し発病している人をエイズ（AIDS）患者と称しています。HIVは非常に感染力の弱いウイルスで、通常はうつりにくい病気であることがわかっています。わが国では、1987（昭和62）年にかけて、全国的にエイズ問題がクローズアップされ、当時は治療方法や感染経路などが特定し難い病気であるという情報などによって、国民のエイズに対する認識が誤ったイメージとして定着しました。今では治療薬があり、発症を抑えることができるようになっています。



2020年度



たつの市民民主化推進協議会啓発冊子



【発行】

2020(令和2)年6月10日

たつの市民民主化推進協議会

【イラスト】

たつの市 養護教諭

【参考資料】

日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」